

## 離島における母子相互作用の研究

○寺 脇 保(鹿児島大学小児科)  
馬 場 泰 光(       "       )  
南 道 子(       "       )

子どもの健全な成長と発達に多大な影響を与えるのは、母親であります。子どもたちは、物質的に恵まれて育てられていますが、その反面、家庭内暴力、非行化、登校拒否などの問題がクローズアップされてきています。

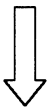
鹿児島県は離島が多く、古くは全く隔離集団と思われる地域が存在した事実もあり、私たちは、鹿児島の母子関係について、古い日本の母子相互関係の原型が残されているかも知れないとの考えから、一昨年は、離島においてアンケート調査を行ってみました。地元民と非地元民を比較してみると、地元民の方が母子関係がうまくいっているという結果が得られましたが、分析が不十分なために、明確な結論は得られませんでした。昨年は、5カ所の離島を訪れ、古老に育児法について、インタビューをしました。約50年前の母子関係を

採っていましたが、昔は、想像以上に生活に追われ、育児という面では悲惨であり、現在の方がはるかに進んでいるといえると思います。昔の庶民の育児では、放任の傾向があったのに、社会悪を働く子どもが少なかったというのも特徴的です。昔の子どもは、各家庭で一つ位のしつけの基本はもって育てられたようで、親の生きざまをよく見て育ち、かつ、自然によく親しむことができ、たくさん兄弟姉妹の中で切磋琢磨して生き、また、部落内での子どもと遊ぶうちによい社会性を身につけていったことが要因となっているのではないのでしょうか。現代の両親も、自分自身の姿を子どもたちに投影するよう努力し、また、子どもの自立心・社会性の向上のために乳幼児期からのしつけに関して、昔の育児法も考慮していくことも一法ではないかと思われます。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



子どもの健全な成長と発達に多大な影響を与えるのは、母親であります。子どもたちは、物質的に恵まれて育てられていますが、その反面、家庭内暴力、非行化、登校拒否などの問題がクローズアップされてきています。